

日刊 發行所 東京 川崎 文治 本社 同前地 電話 六三〇番

常新新聞

定部金貳圓 一月五圓 三月十圓 半年二十圓 一年四十圓 郵税五厘

料字五號十二行 五字一十行 五字一十行

日刊 休日 日曜大祭 日祝日ノ登

福島縣石城郡平町長崎町三五番 發行所 常新新聞社 電話 六三〇番

刊夕日五十二月八

常警論壇

我國現時の人口食糧問題

永山勇吉

（四）

ところどころがよくなったもので産業革命が齎した機械工業といふものは従来の家内工業とか手工藝の様に、たいた腕力や技術は要しない、少年婦女と雖も従事出来るといふのでこれを工場へ送つたサーズなるもの今迄悲観してゐた貧乏の子澤山がホク／＼者になつた其後百年間といふものは、英國人口は約四倍、獨逸人口は約二・五倍といふすば

らしい増加を示し、その結果は大多数の無産階級は再び生活難の苦しみを呻吟する有様となつて来た、丁度我が日本の現状に似てゐるこの現實を目撃して、將來もなほ之の調子で進む曉に於ては、如何なる事になるであらうかと心配したのがマルサスである。

マルサスの人口論を一讀すれば、當時の生活難が如何に悲惨に陥つてゐたか、誰の目にも映じて来るであらう。彼は從來唱へられて来たところの「富の原因は人口増加にあり」といふ通説に對し「大鐵槌を下して全然これと正反對に「人口増加は貧の原因なり」と叫んだのである。

左にその大要を述べて見よう。

「人口増加は一、二、四、八、十六、三十二と幾何的級數で増進するが、食物は一、三、五、七、九、十一、十三といふ様に算術的級數で増加するに過ぎない。故に人口は若し何等の障害なければ、二十五年毎に二倍になる、然るに食物を作り出す耕地には限りがある故無限に増加せんとする人口に供給すべく、食物は益々窮乏して、人口一人宛食物量の割合は、いよ／＼遞減して、人生の將來は遂に貧困の極に達せざるを得ないであらう」と。（つゞく）

近代の大政治家平民宰相の眞實寫眞

此好機を逸せず即刻申込み来たれし

廣く滿天下の各位に

御一覽を切望す！

東北の生んだ近代の英傑、平民宰相原敬閣下の偉名は天下何人と雖も知らざるはない、其の雷名は世に轟ろき其偉業は萬人崇仰の的となつて居る、吾人は此の大英傑の風姿を永へに子孫に傳へて子弟訓育の資料たらしめんと寫眞頒布の擧を敢行するに至つた、同寫眞は眞に同氏生前の英姿を髣髴として再現せしめ凝視する事瞬時にして此偉人の人格より流るゝ一種の靈感を味得せしめずにはをかぬであらう、願くは吾人の意を賛せられ幸ひに此機會を逸する事なく絶版とならざる間に申込あらん事を切望し併せて萬天下の諸士に廣く頒布の趣旨を徹せんとする次第です



大……縦一尺二寸、横九寸
定價・三圓・二十錢

小……縦一尺、横八寸
定價・二圓・五十錢

◇申込に際しては大小明記あり度し

金ブチ及び黒柿等各種の額ブチ用意しあれば御希望に依り御求に應じ候

申込所

福島縣平町三丁目
石城政友俱樂部内
山田忠太郎宛
（電話四五七番）

鐵柱街燈は 五十錢値下すると

會社側から回答

區長側は協議の上態度決定

平町の鐵柱街燈一基一ヶ月三圓の料金を二圓に値下せよとの運動が起り各區長結束東部電力平營業所に交渉を開始したるは既記の如くであるが右に對し昨日會社側から左記の回答あり是れによると大体一基の料金を二圓七十錢と改め若し六ヶ月前金なれば二圓五十錢と爲すといふに區長側は廿七日山本屋旅館に會合し會社側の回答を協議し是れを認むべきや否やに就いて其態度を決する由

一、鐵柱街燈料金は壹基壹ヶ月金貳圓七拾錢とし前月廿五日限り當營業所へ拂込まれること
二、既設鐵柱街燈にして建設後壹年六ヶ月を経過し未拂込料金のなき分に對しては左記に基き契約することを待
六ヶ月前金壹基壹ヶ月

但し料金を拂込期日其の起算月の前月廿五日限り拂込むこと
三、前各項の料金率は前項條件の具備したる分にして契約締結を了したるもののみ昭和貳年拾月分より實施す
四、契約は各組合より参名以上の委員を定め締結す
但し組合員全部の委任状を添付すること
五、契約書案は當會社の定めたるものに據ること
六、一組合との契約は五基を以て最低基燈とし満五ヶ年を契約期間とす
七、本料金實施後は集金取扱費の支出及其他料金の割引等はなされるものとする
八、昭和貳年九月拾五日迄に契約締結せざる組合に對しては拾月分よりと雖も一項二項の料金を率に據らずして契約締結の翌月より據ること
以上

福島新聞社主催で 立松夫人の獨唱會

平町の音楽シーズンを飾る 十日夜平劇場にて

同業福島新聞社では今回一萬五千號を記念するため立松房子夫人を聘して獨唱會を來る九月十日午後六時から平町平劇場に催すこととなつた、立松夫人はかの朴烈文字の 審理者として有名

重傷の妻に別れ 赤子を脊負つて入營

泉驛車窓奇禍事件後報 涙に送られて

夫が後備召集にて仙台第二師團に入營の爲め見送りせんと上野驛から同車に乗つた東京市淺草區淺草町菅原喜源治の妻ハナ(三八)が泉驛通過の際車窓より首を出し郵便受授器に頭部を激突し重傷を負へたるは昨報の如くにてハナは酒井醫院に擔ぎ込まれ治療中仲々の重態であるが入營日が廿五日の爲め喜源治は乳呑子を仙台在の親戚に預けんと是れ

高木湯本町長 愈よ告訴

横領や詐欺で 石城郡湯本町大字湯本區會

廢止問題から端を發し同町長高木己之吉氏の失政事件が曝露され既記の如く問題となつたが廿四日區員會議は擧つて平區裁判所檢察局に公金横領詐欺として告訴を提起した、その内容は大正九年以來の電柱敷設料金問題、大正十四年上川鐵道敷地拂下げ問題、同十四年引湯工事に就いて圖面作成に當つて警務野村技師、贈るべき金側時計問題、同神戶木管會社に對する五十圓の謝禮問題等に就いて何れも高木町長が詐欺を働き公金を横領着服したといふにあつて愈々司直の活動となり相當事件は擴大される模様である

同志諸君ニ謹告

來ル八月二十八日午後一時ヨリ平町聚樂館ニ於テ縣會議員候補者豫選會相開候間同志諸君多數御勸誘御出席被下度御通知二代へ此段謹告候也

石城政友俱樂部

避けてゐる間も房子夫人は家庭をまもり三人の愛兒を慈しむ傍ら露々たる世上の俗論に關せず雄々しく樂壇に立つてその生命とする藝術のために精進して止まなかつたことは藝術に生きる人として眞に涙ぐましい感激の試練であつたに相違ない宜なる哉夫人の

明年の花時迄には 公園に橋を架ける

第一から第二への聯絡 幅九尺の優雅な木橋

平町では松ヶ岡公園第一第二の聯絡を完成せしめ園内の風致を添へしむると共に花時難路を呈する場合等の公衆に 便宜を 與へしむる 目的で花時の町役場吏員出張詰所に聯絡橋を架設せんと計畫中で目下土木課に依つて設計圖の調製中であるが該橋は大体木橋なるものに之れに美術的意匠を加味して優雅なるものとする方針からしく長さ七間幅員九尺に

- #### 本縣警察辭令
- 白河署長 佐藤 久俊
 - 高等課長 小林 周
 - 警察練習所長 大久保俊彌
 - 白河署長 棚倉署長 齊藤 吉次
 - 桑折署長 齊藤 吉次
 - 小野新町署長

耳の兎

耳だけで一尺七寸餘、山形縣藏王地蔵嶽六千尺の高峰に在る大石地藏尊の修復は近日中に着手する筈であるかこの地藏尊は高さ一丈五尺の座像で七百貫を越える座石の蓮華に座し胴の長さ五尺六寸幅四尺五寸、顔二尺九寸、耳一尺七寸といふ珍らしく大きなものである



汗からのタレ

アエシカデンファンまたはチオノールをつけてやるとよろしい、そして時々微温湯で絞つたタオルで拭つてやることで、そして第一入浴を怠らぬやうにせなければなりません、もと／＼アセモのやうなものには餘り汗をかいてそのまゝ放任しておくと生じるものですがそれ以上一種々な小兒病を起し易いのですから特に汗は乳兒には大の禁物です、それですから汗をかいた着物はよく取換へてやらねば

販賣組合幹事會

有限責任石城販賣利用組合では來る二十三日午後一時から同組合事務所にて理事會を開き秋蠶市場の開始についての事業方法を協議した

平の野球戰

鐵道常磐俱樂部では二十八日平遠征を試み全平軍及び磐中と磐中グラウンドに於て對戦する